

調査研究費（ 創世下関 ）出張報告書

令和 6 年 7 月 30 日

氏 名 関谷 博 林 透 江村 卓三 井川 典子 星出 恒夫 吉村 武志 阪本 祐季	視察項目 相模原市の人口減少対策について 子ども家庭庁（子育て支援関連） 北千住どろんこ保育園視察
期 間 令和 6 年 7 月 1 日から 令和 6 年 7 月 3 日まで	視察先 相模原市役所 衆議院議員会館・子ども家庭庁 北千住どろんこ保育園（東京都足立区日ノ出町 4 1-1 4）

視察概要・意見等

・相模原市視察

①合併による人口動態と現状と課題

わたしたちを取り巻く社会環境や日々の暮らしが急速に変わってきている状況の中、地方分権の推進、少子高齢化への対応、日常生活圏の拡大、住民ニーズの多様化などの変化に対応し、より質の高いサービスを提供していくためには、市町村にある程度の規模と財政基盤の強化が求められています。未来に向けての市の発展を考え合併を行った。

全国的に大きな課題である人口減少問題は、数そのものだけではなく、人口構成が変化することでも大きな課題となります。生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加すると、就業者数が減少するため、経済規模が縮小し、税収が減少する一方で、高齢者の増加により医療費や介護費が増大し、社会経済に大きな影響を与えると一般的に言われています。また、この問題を地域の日常生活で考えてみると、地域におけるサービスの縮小や小売店等の撤退が進み、地域の活気と利便性が失われるだけではなく、これまで地域で行われてきた防犯や祭事等の担い手がいなくなり、地域活動の存続も難しくなるという問題も含んでいます。このような問題を顕在化させず、持続可能な社会を構築していくためには、「数」だけではなく「人口構成のバランス」にも着目した取組を積極的に行っていく必要があります。

相模原市では、目指すべき将来の方向性を「市民の未来に対する安心感と安定を作り、市民の夢や希望がかなう環境の実現」を目標とし、人口の将来展望として、2060(平成72)年の人口67万5,000人を目指しています。

②対策

国の総合戦略における4つの基本目標と、人口減少等が地域社会に与える影響などの課題の整理に基づき、「1 出生数(出生率)の改善(自然増)に向けた取組」「2 転出抑制、転入増加(社会増)に向けた取組」「3 鳥の目・虫の目による地域分析と政策立案」の3つの取り組むべき視点と対策から、1では、出生率の向上・改善にむけ、未婚・晩婚化の改善への施策と子どもを育てる上での支援を、2では、社会増に向けた、暮らしやすさや住宅購入、定住促進への支援や雇用創出、働く場の確保を、3では、人口構造のバランスを改善するなど、地域を分析し、地域資源を生かして、将来の魅力ある都市として、また、ポテンシャルを生かして人や企業に選ばれる都市として発展する施策を行っていくことが重要です。

下関市もここに挙げた項目は、必須項目だと思いますので、より具体的に施策を組み立て、会派提案、市長要望で上げて参ります。

・子ども家庭庁

下関市でも人口減少は喫緊の課題です。子育て支援は、対策の大きな役割を担います。地方の財政が厳しい中、十分な支援ができない現状があります。国は、子育てに力を入れるというものの、子育てという大きな枠でしか捉えてなく、地方への降ろし方、又地方が付けてもりたい支援の項目がきちんと入っているのか等々意見交換させて頂きました。

近年、地域社会では、障害の有無や、発達におけるニーズの有無に関わらず、全ての子どもが同じ場で一緒に過ごせる環境作りが求められている。下関市の現状としては、保育園、児童発達支援は整備されているが地域の中に点在しており、各々がそれぞれの役割を果たしているため、全ての子どもが同じ場で一緒に過ごせる環境としては課題が多い等、多くの子育て中の親や子育て関連の方々からの意見徴収で得た課題の解消、対応として、下関市の子育てに必要な支援内容をまとめ、国の補助金等の支援と照らし合わせ施策提案を行うための協議が出来ました。

・どろんこ保育園

保育園と児童発達支援事業所の間に壁を作らず、保育園内の一室を使って児童発達支援事業を行っている。

どろんこの保育は、異年齢保育・インクルーシブ保育の実践です。

年齢が違う子同士、障害の有無に関係なく、どの子もやってみたいこと、思いどおりにならないこと、全て実際に経験することです。

発達支援専門スタッフが、その子その子に応じた個別指導やグループ指導を行っています。

0～5歳児が頼りたい相手、遊びたい相手、遊ぶ場所を自ら選び行動していました。

雑巾がけやリズム体操、やぎ・にわたりの世話、畑仕事、座禅、裸足での行動を行っています。それによって、どろんこ子育ての6つのちからが養えます。

- ①けがをしない強いからだ ②自分でできることを自分でする ③全ての人との関りから判断行動を身につける ④活動を選択し、自分で考え行動する ⑤生死を知る
- ⑥感じたこと、考えたことを表現する

どろんこ会は、全国100カ所以上を有するインクルーシブ保育のパイオニアです。

異年齢や障がいのあるなし関係なく子どもたちも互いに支えあい教えあうことをゾーン保育により学んでいます。

発達支援センターと認可保育園の併設も始められました。

実際に子どもたちの様子や園の雰囲気、状況、スタッフの声を聴かせて頂き、下関市のこれからの保育への取組みに役立てる具体的施策提案を行います。